



キャリアセンターオススメ! 「夏休みの過ごし方」

キャリアセンター職員
さん

キャリアセンター職員
さん

夏休みを利用して進路について考えてみませんか? “大学卒業後の進路”はいつ考え始めればいいのか、そのためには何が必要なのか、わからないことがたくさんあると思います。そこで今回は、獨大生が進路を考える際に強い味方になってくれる、キャリアセンターのスタッフに今からできるオススメの「夏休みの過ごし方」を取材しました!

Q. 一般的に卒業後の進路はいつ頃から考えると良いのでしょうか?
「情報を仕入れる」という意味では、3年生の4月から考え始めるのがおすすめです。夏のインターンシップが現在の就職活動で大きな役割を果たしているため、逆算するとこの時期になります。ただし、在学中に留学を検討している場合や、公務員への就職を考えている場合は更に早めに考えはじめるとう良いです。

Q. 1・2年生から準備を始めずに間に合うのでしょうか?
1・2年生はまず学生生活を充実させてほしいです。結果として、それが就職活動でのアピールにつながります。3年生は就職活動の準備が始まり、忙しくなってくることを考えると、1・2年生のうち学生生活を充実させることで将来的に自身の人となりや表現を上手にできるようになります。今関心があることを一杯頑張ってください。

Q. インターンシップとは、いったいどんなものなのでしょうか?
社会に出る前に仕事を体験できるものです。大学受験の際にオープンキャンパスに参加したと思いますが、そのイメージで企業の見学や体験を通じて自分に合うかどうかを感じられます。開催日数、内容、選考の有無も企業

によって様々で、多くの選択肢の中から自分で選んで応募します。自ら情報収集し、行動する力が重要です。獨大生の3年生からも関心が高く、「どんな企業に、何社くらい応募すればいいですか?」という相談が増えています。

Q. 就職活動では何が評価されるのでしょうか?
基本となるのは人間性です。「あなたはどのような人?」という設問に対し、言葉で人となりや伝えたい学生からの相談を通じて、とてもいい魅力を持っているのに自分に自信がない学生が多いという印象があります。話を聞くと、面白い経験や、魅力的な長所を持っている方がたくさんいます。例えば、「自炊をした」というエピソードでも、ダイエットが目的か、節約が目的か、目的によって伝わる人柄が異なります。なぜやろうと思ったのか、どのように頑張ったのかを言語化する中で自然と評価につながりますので、自分に自信を持ってほしいです。もし、自信が持てない場合は、キャリアセンターに来てもらえれば既に持っているものを輝かせることができます。

Q. 今から進路について考えるとき、まずは何からすればいいのでしょうか?
逆算をしてほしいです。目標の大小は問わないので、目標に向けていつまで何ができればいいかを考えると、今

必要な情報や行動がおのずと見えてきます。現段階では多くの方が進路について「何がわからないかが、わからない」という状態だと思います。「何から始めたいですか?」という相談がキャリアセンターでは最も多いので、悩んだらまず気軽に相談してください。

Q. 夏休み期間、学生たちにとっての過ごし方ってありますか?
3年生は、社会に関心を持ってほしいです。新聞を読む、身近な人の仕事について聞いてみる等あまり難しく考えずに情報収集してください。これらをきっかけとして夏のインターンシップに参加してみるのも大切です。また、1・2年生の時に挑戦しきれなかったことがあれば、この夏休みにぜひチャレンジしてほしいです。

1・2年生は大学でやりたいと思っていたことに挑戦してほしいです。就職活動を意識しすぎず、まずはやってみること。そして、可能であれば「この目標に対して、これをやってみよう」と言語化してみると良いと思います。目標を話す場や、進捗報告をする場としてキャリアセンターを使ってほしいです。

夏休みはキャリアセンターが比較的空いているので、ぜひ一度来てほしいです。



卒業生に仕事についての喜びや、獨大生に向けてのメッセージを語っていただきます。

やりたいことは すべて取り組み、 「カッコいい大人」を 目指します。

株式会社メディックス チーフアカウントプランナー
さん

(2019年度 経済学部 国際環境経済学科卒業)

私はデジタルマーケティングの総合コンサルタントを行う会社で企画営業職として働いています。Instagramのストーリー広告をはじめとするSNSや動画配信サイト、WEBブラウザに掲載される広告のコンサルティングを行っており、現在は自分の案件を担当しながら、チーフとして4名のメンバーの育成を行っております。

就職活動の際に考えた目指すべき理想像として「カッコいい大人になりたい」という軸がありました。私なりの「カッコいい」の定義は自分の総合力を上げるために成長し続けられることです。その環境があるかどうかを重視して今の会社を選びました。

私の仕事は絶対的な答えがないので、「物事の本質を考える」ことを大切にしています。クライアントの課題を俯瞰し、本質が見極められるかが重要だと考えています。クライアントの期待に+αで応える事が求められる決して簡単ではない仕事ですが、それがむしろやりがいにつながっています。自分を成長させていると思っっています。自分の考えた提案を元にプロモーションを行った結果クライアントの成果に繋がった時は達成感を感じますし、そのために常に情報にアンテナをはることで、一般消費者の目線を忘れないためにも、流行が「なぜ」流行しているのかを想像するようにしています。

在学中は、「学生時代にしかできないことをしよう」と決めていて、やりたいと思ったことはやり切りました。

学業にしっかり取り組むことはもちろん、夏休みも含めた学生生活の中で「体験」に時間を使うようにしていました。通学時間で授業の予習復習を済ませてアルバイトや海外旅行、インターンシップに参加したりと持っている時間を上手く分配できるように工夫していったと思います。

4年間主体的に取り組んだことが、今の私の土台となっています。例えば、英語以外にもスペイン語や韓国語の授業を履修しましたが、外国語学部の方が多くても刺激的でした。知らない環境でも挑戦したからこそ出会えた友人もたくさんいますし、授業で先生に質問に行ったら熱心に答えてくださるなど、自分から動くことで道が開けることを学びました。社会に出てからも主体的に動く姿勢を評価いただけることもあるので、振り返るとオンラインキャンパスならではの環境を最大限生かしたと思っています。

在学生のみならず、やりたいと思ったことには貪欲に、学生生活を楽しんでほしいです。

獨協大学が良い大学と社会から評価されている要素の1つに、「獨協大学の学生、卒業生って素敵だな人が多いよね」という個々の評価が少なからずあると思います。就活時や社会に出てからも会社や学歴という肩書が影響することもありますが、最終的にはあなた自身という「個」の評価をされます。自分の価値を確立するためにも、学生時代に自分のやりたいことを全力で取り組んでほしいと思います。やりたいことがないという方もいると思いますが、それはまだ見つかっていないだけかもしれません。少しでも心が動いた出来事があれば、「それはなぜか」と自分の行動をさかのぼることが、自分のやりたいことを見つかるヒントになると思います。その年の大学生にしかできないことは必ずあります。後悔することのないよう、自分なりの色を見つけてもらえたら嬉しいです。



戸津さんのある一日のタイムスケジュール

